

平成29年度 第2回平塚市総合教育会議 議事録

開会の日時

平成30年2月14日（水） 14時28分から15時38分まで

開会の場所

市役所本館 5階 研修室

会議の構成員

市長 落合 克宏 教育長 吉野 雅裕 教育委員会委員 田中 千勢子 同委員 水谷 尚人
同委員 荒井 正博 同委員 林 悦子

関係部課長等

学校教育部長 今井 高司 教育指導担当部長 深谷 昇平 社会教育部長 高橋 勇二
教育総務課長 中戸川 泰彦 教育指導課長 工藤 直人 教育研究所長 高橋 浩也
子ども教育相談センター所長 小松 且幸 社会教育課長 久保 利秋
中央公民館長 佐野 公宣 教育総務課教育総務担当長 関野 良真
教育総務課企画担当長 斗澤 正幸 社会教育課社会教育担当長 鈴木 和幸

事務局

総務部長 柏木 道之 行政総務課長 宮崎 博文 行政総務課行政管理・統計担当長 森川 芳章
行政総務課行政管理・統計担当主査 五十嵐 雅史 教育総務課教育総務担当主査 藤井 恒平

傍聴人

0人

会議概要

次のとおり

1 開会

【総務部長】

ただいまより、平成29年度第2回平塚市総合教育会議を開催いたします。

本日はお忙しい中、御出席をいただきありがとうございます。

本日、協議・調整事項以外の部分につきまして進行を務めさせていただきます総務部長の柏木と申します。よろしくお願いたします。

会議を始めるに当たりまして、配布資料の確認をさせていただきます。

次第と名簿、資料1といたしまして、「平塚市子どもの居場所づくりのための取組の紹介」A3横長のものがございます。資料2といたしまして「平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について」でございます。過不足はございませんでしょうか。

それでは、開催に当たりまして落合市長から御挨拶申し上げます。

2 平塚市長 挨拶

【市長】

皆様こんにちは。市長の落合です。本日はお忙しい中、平成29年度第2回平塚市総合教育会議に御出席いただきありがとうございます。また、日頃から平塚市の子どもたちの健全育成、本市の教育行政の充実推進に御尽力をいただいておりますことに改めて御礼申し上げます。

現在インフルエンザが猛威を振るっているとのことで、先日教育長からも報告がありまして、市内の小中学校で学級閉鎖のみならず学年閉鎖も相次いでいるとのことです。市としましてもこれ以上の感染拡大を防ぐためにも注意喚起をしているところですが、一日も早い終息に向け、より一層の情報発信に力を入れていきたいと思っています。

今日の協議・調整事項は2点ございます。まず、1点目は地域との関わりについてです。将来の平塚市を担う子どもたちの成長には授業やクラブ活動等の学校での取組はもちろんのことですが、地域との様々な関わり合いが必要となってまいります。地域として子どもたちにどのようなことができるかについて、皆さんの御意見をお聞かせいただければと思います。

2点目は学力向上についてですが、子どもたちの生きる力を育むためには知識や技能も必要ですが、それだけでなく学習意欲や考える力を向上していくことが不可欠であると思っています。これについても皆様と意見交換をさせていただければと思います。

いつも申し上げますが、子どもたちは平塚市の宝であります。未来を担う子どもたちが安心して教育を受けられる環境を整えるとともに、本日の会議の意見を参考に今後更なる取組を推進してまいりたいと考えています。本日も是非とも活発な意見交換、議論をいただきますようお願い申し上げます。冒頭のあいさつに代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【総務部長】

ありがとうございました。それでは、次第 3 協議・調整事項に移らせていただきます。ここからは、平塚市総合教育会議設置要綱第3条の規定に基づきまして、進行を市長にお願いします。

3 協議・調整事項

【市長】

それではここからは、私が進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。それでは、(1) 地域で子どもたちを支援する取組について、事務局から説明をお願いします。

【社会教育部長】

「地域で子どもたちを支援する取組」ですが、資料1のとおり、様々な地域団体により市内各地域で活発に行われております。例えば、学習支援や子どもの居場所として、横内地区の「横内マイタウンスクール」や八幡地区での「やわた子ども村」、そして港地区での「放課後子ども教室」があるほか、岡崎地区での福祉村を中心とした子どもの学習支援等、地域の方々に実施していただいております。また、中学校区ごとに構成している「地域教育力ネットワーク協議

会」では、子どもたちの生きる力を育むため、各地区が地域の特性を活かして自然観察会や各種体験教室、防災キャンプ等様々な事業を展開しています。

公民館では、児童・生徒が参加できる事業を展開し、児童・生徒の学びを深める等、地域で学び合う機会の提供に努めているほか、大学生を含む地域の人材による「宿題のお手伝い（学習支援）」のような取組を、吉沢公民館を始めいくつかの公民館で行っています。

今後も、地域の特性を活かした、地域の力による様々な取組を支援し、子どもたちの居場所づくりを目指していきたいと考えております。

以上です。

【市長】

ありがとうございました。事務局から「地域で子どもたちを支援する取組」について説明いたしましたが、これにつきまして委員の皆様から御質問、御意見等ございましたらお願いいたします。

【教育長】

ただいま、社会教育部長から説明のありました「地域教育力ネットワーク協議会」は、今年で20年を迎えますが、私が指導主事の頃に立ち上がり、担当をしていました。素晴らしい活動ですので、補足をさせていただきます。

昭和50年代中頃の当時は、戦後第3の非行のピークといわれ、暴力行為や器物損壊等、反社会的な行動が中学校に蔓延した時代でした。その状況を改善するために、各地区で非行化防止推進団体が発足し、それが「青少年健全育成連絡協議会」いわゆる「青健連」につながりました。時代が進むにつれ反社会的な行動から、いじめや不登校等の心の問題、いわゆる非社会的行動にシフトしました。そこで、世代間交流、体験活動等を通して地域ぐるみで子どもの全人的育成を目的に設立されたのが「地域教育力ネットワーク協議会」です。

協議会は、学校、自治会、公民館、青少年指導員、PTA等様々な地区の団体の方々で構成をされており、中学校区単位で活動しています。取組内容ですが、防犯パトロールやサポート看板については、全ての協議会で行う共通事業となっています。それ以外にも、地区ごとに「郷土いろはカルタ大会」や「通学合宿」等、地域の実情に応じて様々な活動が独自に行われています。

【市長】

教育長から協議会についての補足がありました。それでは委員の皆様から御質問、御意見等ございましたらお願いいたします。

【荒井委員】

今、教育長からのお話でもありましたが、地域教育力ネットワーク設立20年ということで、平塚独自の取組ということで非常に素晴らしいと思います。昔は近所の方が子どもの面倒を見ることや声掛けをしていたが、事情は変わり、今の子どもは遊ぶ暇もありませんし、野球やサッカー等のクラブ活動をやっていればいいですが、上級生や下級生と一緒に行動する機会があ

りません。これがいじめ等につながっている場合もあるのではないかと考えています。勉強だけでなく、一緒に遊ぶことで上下関係を学ぶことは大変に良いことと思います。

この取組は中学校単位で行われているとのことですが、この理由を教えてくださいと思います。

【教育長】

この地域教育力ネットワーク協議会は、「青健連」を母体として20年前に設立されました、「青健連」が15中学校区にあったことから、地域教育力ネットワークも中学校区ごととなっています。

中学校区ですと、小・中の連携ですとか、小・中学生が一緒になってイベントに参加ができるといった点から、活動に幅が出るといったメリットもあります。

【水谷委員】

私もPTAを以前にやっていたので、この地域教育力ネットワークの活動にも参加したことがあり、いろいろな団体で集まっているので良いと思います。しかしながら、いろいろな団体で様々な催し物が毎週のように行われており、同じようなことが行われていることもあるので、どうなのかと思うこともあります。この取組から様々な団体の方と交流ができ、役員の親だけでなく、これを契機に役員の子ども同士の交流ができることもあり、良いところと思います。ただ、予算が付くので行事先行型になるのが課題なのかと思います。

【田中委員】

ただいま、地域教育力ネットワーク協議会の話があり、また、行事についても課題も出ておりましたが、毎年様々な行事を開催していただくのは、非常にありがたいと思っておりました。参加者への対応を見ても、地域の子どもたちを健全に育成していこうということを感じることができ、学校にとっても、心強い存在であったことが思い出されます。

その地域教育力ネットワークの主催で、金目中学校区において開催されている通学合宿ですが、昨年参加する機会がありました。家族と離れ、学年の異なる友達、他の学校の友達の中にあって、どの子どもも、明るく楽しく生活していたのが印象的でした。会場となる公民館から金目小学校やみずほ小学校に通学するというので、学校の協力も不可欠だったのではないかと思います。また、食事等のお手伝いをされている地域の方が、生き生きと喜んで活動をされているのが印象的でした。さらに「もらい湯」といって一般家庭にお邪魔して入浴をさせてもらうといった取組には驚きました。毎年楽しみにされている家庭もあるということで、素晴らしいと思いました。協力団体だけでなく、地域の一般家庭の協力も得ていることにもこの活動に特徴があると言えます。15年間継続しているとのことですが、こうした貴重な体験をこれからも子どもたちに味あわせてほしいと思いました。地域主催の行事というのは、中学生や小学生がボランティアとして参加しているものも多くなっており、活動に活気をもたらしていると思っています。身近に感じる大人の活躍を直に受けて学んだ子どもたちは、やがて地域の担い手になって成長していくのではないかと期待できると思います。

【市長】

通学合宿についてお話をいただきました。私も毎年通学合宿に行かせていただき、子どもたちと食事を一緒に摂らせていただいています。その食事は子どもたちの祖母くらいに該当する方々で構成する友の会に作っていただき、子どもたちに好き嫌いなく食べなさいと言ったり、もらい湯では送り迎えをしたり、そこから学校へ登校する等、地域の皆さんの協力ができない行事であります。子どもたちに感想を聞くと目が輝いています。我々が幼い頃は、荒井委員からもありましたが、地域でワーワーと遊んだ記憶があります。今の子どもたちは、上級生下級生を含めて異年代の人と接する機会がないのか、だからこそ反対に新鮮に感じて、でもやっぱり集団になると気を遣わなければいけないんですね。面白いことに時々「〇〇ちゃんはこのことが得意だからいいよね」等とほめたり、「こういう風にしたらいいんじゃない」みたいなことを言ったり等、人間関係を改めて体験をしていくといった非常に素晴らしい取組であると思っています。長い間実施していますが、実際にやっていただいている地域教育力ネットワークや地域の方にお話を伺いますと実施に向けて準備等大変ではあります。それを乗り越えて実施してもらっています。子どもたちを大切にするという金目の地域性もあるのかもしれませんが、地域で子どもたちを支えるこの行事は素晴らしいと思っています。

【林委員】

先ほどの社会教育部長の説明にもありましたが、資料1にありますとおり、公民館を利用して神奈川大学の学生が「吉沢寺子屋」を地域で活動をしています。これは、地域の子どもたちをサポートするというのが目的ではありますが、学生たちにとりましても、教職課程での大学での勉強や、公式の教育実習では得られない自由闊達な雰囲気の中で、子どもたちと遊びながら触れ合いをさせていただき、基本的な子どもたちとの関係を学ばさせていただいており、大学にとっても大変ありがたいことだと思っています。

どの地域づくりでもそうですし、市長や田中委員からもありましたように、取りまとめのコーディネートをしてくださる方の御苦労というものは、本当に思いやられますが、子どもたちの笑顔が一番の御褒美ではないかと思えます。どの地域でも担い手というものが大切だと思うのですが、私も数年先大学を退職しますが、何らかの形で地域の子どもたちのサポートをしたといった時に、例えば公民館ごとの地域がコーディネートというか入口になってくれるとありがたいと思っています。

【市長】

林委員さん、神奈川大学の学生さんを含めて土屋・吉沢地区の面倒を見ていただき感謝申し上げます。学生さんたちもこれから社会に出るに当たって、社会性を身に付ける等の効果がありありがたいと思いますが、子どもにとっては年齢の近いお兄さんお姉さんたちと活動ができる等、とても良い異年代交流だと思っています。今後とも御指導をいただければと思います。林委員から話がありましたが、市民が有する知識や経験を地域還元していただくよう人材バンクみたいな仕組みがございます。地域には指導のできる知識や技術を持っている人がたくさんいます。そういう情報を取りまとめ社会教育サイドにデータとして所有していれば教えてもらえるのではないかと。スポーツ分野では今後の学校の部活動への対応では新たな取組も出てくる

とは思いますが、技術等を有する方に青少年の指導に当たっていただけるのではないかと思いますし、「知恵袋バンク」もありますので事務局から説明をしてもらえますか。

【社会教育部長】

「知恵袋バンク」は、地区の公民館が窓口となり、地域の人材を登録するもので、知識や経験、技術を有し、それを還元したいという方が登録をされ、また、地域の各種団体やサークル活動等で講師を探したいといった場面で活用してもらおうといったことで始まった制度です。もちろん趣味、文化芸術のみならず、子どもたちの放課後の学習支援のようなボランティアも登録でき、登録状況についても概ね順調に推移しています。

【市長】

社会教育部長が説明したとおりの取組を行っております。私は色々な方に活躍をしていただける社会で、やりがいを持って活動することが街にとって素晴らしいことですので、生涯・社会学習観点からこのような制度を作りどんどん関わっていただければと考えております。

【水谷委員】

大学生が関わる「吉沢寺子屋」のような取組は、子どもたちと年代の近い大人と触れ合うことは、お互いにとって良いことであり、本当に素晴らしいと思います。市内では様々な取組があり、関わっている団体の数も多いと思います。同じ内容を行っても、それぞれ個性があり選択肢が増えるのは良いことと思うのですが、これ以外にも民間が行う習い事とかがあります。民間企業では死活問題となるので、色々なお客さんにヒアリングをして何が足りないか等を把握することをやりますが、公民館の活動について「満足度調査」みたいなものは実施しているのでしょうか。

もう1つ、そのような評価を行っていること的前提で、行政が中心になってこのような取組を行うことは非常に良いことと思うのですが、この取組を推進していく上で行政としての強みをお聞かせいただければと思います。

【市長】

昔は、公民館活動を行うとその都度アンケート調査を行い、参加者からの評価を受けていました。現在はどうか。

【社会教育部長】

現在もどの点が良かった、今後はこのようにしてほしい等の内容を含めアンケートを行っております。また、講座や事業の課題について公民館職員が分析し、今後どのように地域の方々とつなげていけるか等（知の循環）をまとめた事業報告書も提出してもらっています。例えば、港地区のカルタという郷土の取組があるのですが、小学生が卒業して中学生になってもボランティアとして行事に関わることがあります。こういう状況で参加者である小学生だけでなく、中学生からも意見が聴け、大人だけでなく若い人々の参加も促進するため、PDCA サイクルを確立し継続的に改善するよう努めてまいります。

【水谷委員】

公民館の行事をお手伝いしている時に、自分だけだと思いますが、アンケートに答えるのは、声の大きい人が多いというイメージが感想としてあります。この辺りは気になります。

【市長】

現在、公民館においても共通事業を行っており、家庭教育学級や児童生徒参加事業ですとかいくつかありまして、そのような事業は必ずアンケートを取りまして参加者皆様からの声を活かすようにしています。

行政としての子どもへの支援に向けた取組として、行政サイドの方から先ほど教育長からも話がありました地域教育力ネットワークが、中学校区単位にあるということは平塚の強みだと思います。

もう1つは、本市の公民館は小学校区単位にあって、これは全国的には例のない状況です。他市では多くても中学校区に1館という状況です。公民館というのは昔は大人の学習の場として生涯学習の要素が強くありましたが、これからは教育施設というだけでなく地域課題の解決の場として活用してほしいと考えております。例えば花水公民館ではサークル活動はもちろんのこと地域団体の会合等、平塚の地区公民館設置の特徴をうまく使って、市民の方プラス子どもたちへの支援の輪を広げていける素地も持っているのかと思っています。

また、私の前々市長の時からの取組である町内福祉村というのがありますが、これは少子高齢化が進んでいますが、地域包括ケアシステムのエリアの中で介護や予防、買い物、交通ですとか高齢者や障がい者の方が生き生きと生活ができるような啓発をしていくことが社会保障の中では目指さなければいけません、そういうものも17か所できています。厚生労働省のモデル地区として地区課題である高齢者対策や障がい者対策等に子どもへの支援も含めて対応をしているところです。これが公民館や町内福祉村があることは、本市が子どもたちの支援を見守れる状況にあるのかと思っています。

私としては公民館、町内福祉村、教育力ネットワークを地域の皆さんで関わってもらい、子どもの育みへ関わってもらって取組を進めてもらえればありがたいと思います。

協議事項1については、いかがですか。何か他に御意見等はありませんか。

(特になし)

それでは、(2)学力の向上についてに移りたいと思います。事務局から説明をお願いします。

【教育指導担当部長】

本市教育委員会としては、「確かな学力の向上」のために「わかりやすい授業づくりに努めること」「指導方法の工夫・改善に努めること」「学習習慣の確立に努めること」等を学校教育指導の重点及び努力点としています。

具体的な取組としては、授業づくり推進員公開授業や中学校計画訪問、ワンポイント研修等、教員の授業力向上や、「自主学習教室」等、子ども達の学習習慣の育成を図る事業をはじめ、多くの施策を実施してまいりました。また、今年度は小・中学校の指導の一貫性を図るために、

中学校区ごとに「小・中夏季合同研修会」を開催する等、小中連携を推進する取組を行いました。今後も、これら教育施策の成果と課題を検証しながら、更なる充実を図ってまいりたいと考えております。

なお、資料2の「平成29年度の全国学力・学習状況調査」の本市の教科ごとの調査結果については、小学校の国語・算数、中学校の数学における記述式問題の正答率が5割未満であるとともに、無解答率も全国をやや上回る等、「自分の意見や考えを書く」ことに課題があると分析しております。

5年連続で本市小・中学校の平均正答率が、全国と県の平均を下回っている結果については、「調査で測ることができるのは学力の一部である」「プラスマイナス5%以内は同程度である」との文部科学省の見解はあるものの、その向上に向けた取組の必要性を、大いに認識しているところです。

本市の学校ごとの平均正答率は、分布の幅が広く、全国平均よりやや下位に厚く分布している傾向があることから、これらを踏まえた対策も重要であり、各学校の学習状況や生活習慣等の実態に応じた支援を研究してまいりたいと考えております。また、学力向上策として、これまで取り組んできた教員の指導力及び授業力向上のほかに、30年度から子どもたちの個々を対象とした新たな取組を進めるための計画、準備をしているところです。

【市長】

ありがとうございました。ただいま教育指導担当部長から学力の向上について説明がありました。これにつきまして委員の皆様から御質問、御意見等ございましたらお願いいたします。

【水谷委員】

全国平均を5%程度下回っているということで、文部科学省からはプラスマイナス5%は同程度であるとの認識が出されているため、大きな問題はないとは思いますが、5年連続で全国平均を下回っていることは気になります。表現が正しいかはわかりませんが、やればできることはあるのではないかと思います。

昨日、私が経営している会社への協賛者の方々とのお話で、経営者の方が若い社員の方に、「新しいアイデアを出せ」という話をし、その若い社員の方は「頑張ります」と答えていました。それに対し、経営者の方は「3日間寝ないで考えろ。3日間考えて滴のように出てくるのが良いアイデア」だと言っていました。このやり取りはリアルな社会でのやり取りだとは思っているので、教育に持ち込んではいけないとは思いますが、私はそのやり取りに共感するところがあります。

担当部長から「自分の意見や考えを書く」ということが課題であるとお話がありましたが、私も本当にそうではないかと思っています。子どもたちが身に付けなければいけないテーマは、そこにあるかと思っていますし、それは大人になって生きてくると思います。学校の全てを見ている訳ではないのでわかりませんが、先生が○か×があることしか教えていないとすると、自分で考えるということは難しいのではないかと感じます。決して教育の現場を深く知っている訳ではありませんが、ひょっとすると、答えというのは子どもたちに導かせたほうが良いでしょうし、私は正解がないことはたくさんあると考えていますので、そのような場面がもっと求

められて、時間がかかるかもしれませんが、この調査の数値も変化してくれるのではないのかという期待を持っています。

【市長】

ありがとうございます。水谷委員から指摘されたことに対して学校側も認識をされているということによろしいでしょうか。

【教育指導担当部長】

授業が、いわゆる以前の先生が板書をする、それを子どもたちがノートに写すといった形から、教えあい学びあいという形に変化してきました。学校現場を見ても、10年前と比較して授業の進め方が雲泥の差です。今ではすぐに子どもたちが机を寄せて、このことについて話し合ってみようとなって、すぐに意見交換を行う等、自分の考えを発表する機会は非常に増えています。

しかしながら、調査となりますと記述までに至らないといった状況です。書くとか問題に慣れるということも必要だと思うのですが、国からは調査に慣れるようなトレーニングは本末転倒であると指導があります。平塚だけではなく全国的なことではありますが、「自分の意見や考えを書く」というところが弱いということは事実ですが、授業を変えていこうというところはだいぶ進んできているという状況です。

【水谷委員】

言葉が足らなかったかもしれませんが、「自分の意見や考えを書く」ということは、将来的には生きてくると思うのですが、覚えなければいけないことというのはベースとなることから、その点は抜けてはいけないと思います。以前、ある調査によると、学生たちが最も先生の話聞く瞬間は、板書の時というのがあります。議論しろというと、特定の者だけが議論を行い、他の者は聞いていないといったこともあって、一概に正解はなく、求めるところはあるのですが、ベースとなるところは、「寝ないでやれ」ということもあるのではないかと考えています。

【荒井委員】

この調査は小学校6年生と中学校3年生が対象ですが、その年齢ですと、興味がないとなかなか勉強はしないと思います。私は、小学校1、2年生頃の勉強が大切ではないかと考えます。また、先生が一生懸命教えても無理な部分もあるのではないかとと思うと、家庭内、保護者の関わりも重要ではないかと思っています。私の小学校1年生の孫も学校から帰ってくると、ゲームやパソコンをやりたいといって宿題をやろうとせず、何とか論じて嫌々ながら宿題をやっている状況です。小学校1、2年生は重要で、宿題を親がチェックする機会があります。先生がそれを見て感想を書いてくれる等、学校の先生はとても一生懸命であると思います。

このような取組で学力が付くかというのは別の問題であり、家庭内、保護者の意識が非常に大きいのではないかと思います。予習・復習は非常に大切で、私が社会に出てからも学生時代に教わったことはとても役に立っています。会議の席でも、何をやるにしても、予習・復習が必要で、そういうことを小学校1、2年生で身に付けることは大切だと思います。

医療で例えると、医者だけでなく、看護師や技師等のスタッフと協力し合いチームとして治療に当たります。昔は痛いところとか、病気を治すということをやってきましたが、今では未病ということで病気を防ぐ予防に力を入れてきています。教育の話と一緒にできるかどうかは分かりませんが、小学校1、2年生への取組が重要になると思います。

【市長】

荒井委員から家庭での教育が大切で、特に小学校低学年の学習習慣が大切ではないかとの意見でした。先生たちも理解はしているとは思いますがいかがですか。

【教育指導担当部長】

小学校低学年からの家庭学習の習慣化という部分だと思います。私が指導室長時代にこの学力調査で毎年全国1位である秋田県に視察に行くことがありました。秋田県では伝統的に家庭学習ノートという取組を行っておりまして、子どもの行う学習内容は何でもよいのですが、それを見て親や担任の先生がコメントすることになっています。その取組を家庭の教育と学校と子どもの三者が小学校1年の時から実施している。ですから本市でも家庭学習をどのように定着をさせていくのが課題と考え、低学年からの学習の習慣化、先ほどチーム医療の話もありましたが、学校や先生だけが頑張るだけでなく、家庭や地域のサポートにより子どもの学力を育てていくことが必要ではないかと思っています。

【田中委員】

家庭学習は非常に重要だと思います。教師の立場に立つと、学力を付けたい気持ちというのは常にあって、分かりやすい授業や楽しい授業、魅力的な授業等へ向けて一人一人の先生が日々悩み努力されているところです。展開に当たっても、体験活動やグループ活動、話し合い活動を取り入れながら子どもたちがどう興味関心を持ってくれるのか、進んで学習に取り組んでくれるのか、苦悩を重ねているのではないかと思っています。どの学校も熱心に研究が進められていて、授業改善への取組については相当な時間がかけられています。

この調査に目を向けてみますと、指導したことが子どもたちに着実に身に付いているのか、それが次に活かされているのかといった確認や、その時の課題を解決する指導が欠かせなくて子どもたちの理解度と育ち、更なるステップアップに目を向けてほしいという気持ちはあります。調査の結果を見ると、記述式や考え方を問う問題の正答率に課題があることが指摘されていますが、正に思考力・判断力及び表現力が問われるもので授業の中での主体的・対話的な学びの質の深さというのが要求されているのではないかと感じています。

そのためには、先生方が指導方法の研修の時間や、自ら工夫をしていく時間の余裕が必要ではないかと考えます。働き方改革に取り上げられている学校が担うべき業務は何か、学校の業務の中で必ずしも先生が担う必要のないものもあるのではないかと、先生の業務負担軽減が可能な業務があるのではないかと、もちろん学校としても整理をしつつ、市としても早急に検討し、策を講じていく必要があるのではないかと考えます。先生方の働き方改革による時間的な余裕というものが、学力向上に結び付く一つになるのではないかと考えます。

【市長】

先生方の働き方改革で時間外勤務時間数等について議会で質問がありまして、私も答弁のやり取りを聞いていて、先生も大変苦勞されていると思っています。

現在の学校の中での先生方の授業等へ費やす時間等はどのような状況でしょうか。

【教育長】

教員は、学校の中で起こったことについては当然対応しますが、日曜日に公園で子ども同士のけんかがあった時でも、その対応に向かう時もあります。また、給食費の未納についても対応しています。教員の本来の仕事は何なのか突き詰めていくと難しくなりますが、これは教員の仕事の範疇ではないと思われることについても対応している現状があります。地域コミュニティの力が弱くなり、地域内で解決できにくくなっていることも一つの原因かもしれません。

また、学校は保護者や地域の方々が相談しやすい所なんだと思います。その結果、学校に持ち込まれる案件が増大し、本来業務ではない仕事も抱え込むという状況になったのではと思います。働き方改革を進めていくには、この仕事のすみ分けが大切になってくると考えます。

【市長】

事務的なことについては、行政側でシステム等を導入して、先生方の負担を減らすことはしていますし、引き続き努力しようと思っています。今後はタブレット端末を増やし、子どもたちによりリアルな教育をしてもらう環境を整えていく努力はしなければいけないと思っています。

また、先生の負担軽減のため、本市ではサン・サンスタッフを始め、マンパワーの充実を図ることで教育環境を整える必要があると考えています。

【水谷委員】

働き方改革は本当に重要だと思います。教育長からも話があったように、何でもかんでも学校に言ってしまう状況があります。反発もないので、言いやすい環境になっているのということ、先ほど家庭学習の話も出ましたが、家庭でやらなければいけないことというのは、すごく大きいことであると思います。

その中で、先生と親との信頼関係が成立していないケースがあるのではないかと思います。一例ですが、小学生の言葉遣いが荒くなったので指導を家庭と一緒にやりましょうと先生方が言ったところ、親御さんの間では先生方の言葉も荒いということ子どもから聞いてるということがあります。どちらが正しいかはわかりませんが、おそらく両方とも正しいことだと思います。この例からすると、どちらかが悪いということではなく、解決に向けお互いに議論をしていかなければなりません。お互いの信頼関係があれば、何か頼みごとがあっても、それはどちらかからやってくれないかということも可能になるのではないかと思います。地域で様々な取組をやっている中で先生方とも関係が深まれば、よりコミュニケーションが図られるのではないかと思います。

【林委員】

地域であれ、学校であれ、世の中の働き方改革で両親が共働きという状況で、忙しいから子どもとの向き合う時間が足りないといった状況です。全体的な働き方改革にうまく地域のコミュニティが機能すれば、うまくチームで解決策を探っていけるのではないかと、希望的な観測ではありますが、少しずつ話し合いを行い、譲歩していく必要があると思います。

大学の教員として感じるのは、現在の学生は大きな中学生と感ずることがあります。その1つとしてスマートフォンの問題があります。今の学生は、ものを知らないということを感じていません。知らなければスマホの中に答えがあるので見ればよいと考えています。その場は分かったつもりであっても、すぐ忘れてしまいます。それはなぜかと言いますと、土台となる知識、教養がないから調べたことが身に付かないことによるものです。今後AI時代を迎えようとしていますが、土台となる勉強は必要なものだと思っています。記憶力や板書が悪いということではありませんが、皆で話合うにしても論文を書くにしても、土台となる知識は必要であると思います。「スーパー授業」というのをテレビ番組でやっていますが、その場で活発な意見が飛び交うのは、参加者が議題に対して一生懸命勉強して参加することが要因であって、何もなかったところで話し合いをしても意味をなさないのでないかと思っています。これからグループ学習、IT化に対する教育ということ、自らの体験と知識の中で生かせるようにきちんと教えていかなければいけないと思います。

さらに、家庭学習について小学1年生だけではないですが、初めて何かを学ぶ際に楽しいとかのきっかけが必要です。大学生であっても新しいことを学んだ際に「そうなんだ」という感想を持ちますし、「それ面白い」と思った時にそこから伸びていくことがあります。後は指導法ということにもなりますが、うまく火を着けるそしてそれを分かりやすい指導の中で更に深め、更に調べるともっと分かるようになるような積み上げが必要であると感じています。

私もこのようなことを意識しながら頑張りますので、地域と学校それぞれの話し合いができるとうよいと思います。

【市長】

この調査の結果に右往左往する必要はありませんが、平塚全体のまちづくりの立場から、市民は、この調査の結果については国や県の平均と比較をしてしまい、平均より下回っているということになると残念であると思います。現在「選ばれるまち 住み続けるまち」ということで子育て世代への施策の展開やハード面での整備はもちろん、社会福祉等の充実等を通して、昨年は自然減を社会増が上回り人口が増加したところで、昨年の統計ですが、0～4歳児の転入数が県内33市町村で1番でした。子育て世代への支援が功を奏してきたということになると思います。反面、中学高校生の世代の流出は多くなってきています。単純に結び付けるものではありませんし因果関係がある訳ではないですが、調査結果が平塚での教育の表れとして見られているのではないかと危惧をしているところです。当初、教育大綱を策定する中で皆さんと「確かな学力」とは何かを議論した中で、生きる力を含めて総合的な力を養っていくこととしたところですが、子育て世代の教育に対する厳しい見方ということも、現実としてまちづくりの中で大きなインパクトになっているのではないかと感じています。地方紙からこの調査の結果についてのコメントを求められた際に、正答率の結果が県や全国平均を下回っていること

については残念であると申しました。魅力ある授業へ取り組んでいただいていることは承知をしています。子どもの意欲を高めるとか、体験的、問題解決的学習等を充実させて豊かな感性、思考力、判断力、表現力を育ててほしいと思っています。教育の独立性は尊重しますが、この調査の結果は、次に取り組む課題としてほしいと教育長にも話をしているところです。

【教育長】

市民にとってどうなのかと問われた場合に、調査結果が悪いより良いほうが良いとは考えます。この調査は子どもにとって今どのような力が必要なのかを図る問題となっています。よって、この調査の点数というのは、教育長としてもこだわらなければならないと思っています。

学力向上には3つのポイントがあると思います。一つは教員の授業力や力量を高めることです。子どもたちは、授業を中心に学校生活を送り、授業を通して様々な力を身に付けていく訳ですから、その授業が子どもたちにとって魅力的なものでなければなりません。研修や学校研究等により、教員の力量を今後も高めていく必要があります。

二つ目は、子どもへの個別対応です。授業はもちろん大切ですが、一斉授業のみでは、一人一人の学習の理解度等を的確に把握し、対応するには限界があります。それについては、放課後に地域の方にお手伝いをいただきながら、一人一人個別に対応していくこと等も考えられます。これには人、お金、時間がかかることであり、今後検討していきたいと考えています。

最後は、活力ある学校づくりです。チーム学校をスローガンに先生方が一枚岩になって活力ある学校づくりを行うことが大事だと思います。その土台となるのは、先生同士、先生と保護者、先生と子どもの信頼関係づくりだと思います。これからもいろいろなアイデアを出しながら学力向上について対応していきたいと思っています。

【市長】

その他、学力向上についていかがですか。

(特になし)

本日いただきました御意見を踏まえて地域で子どもを支える取組、また学力向上について、「選ばれるまち 住み続けるまち」を標榜している本市です。「未来の礎を築く教育」という基本理念もありますので、今日いただいた意見を参考に「選ばれるまち 住み続けるまち」これをオール平塚で取り組んでまいりたいと思います。委員さんからの御理解、御指導、御協力を、また教育委員会とも課題を捉えて進めてもらえればと思っています。

本日の協議調整事項は終わりですが、他に協議等を行いたい案件はございますか。

(特になし)

それでは進行を総務部長にお戻しします。

【総務部長】

ありがとうございました。それでは、これもちまして平成29年度第2回平塚市総合教育会議を終了させていただきます。委員の皆様におかれましては長時間お疲れさまでした。ありがとうございました。